



特集の狙い

IoT (Internet of Things)、ビッグデータ、人工知能といった情報技術を活用した金融サービス・イノベーション FinTech は、経済活動を急速に変革している。「Global FinTech Report March 2016」(PwC)¹は、既存金融機関の収益源のかなりの部分が FinTech で代替されると指摘しており、近年、FinTech 投資を見据えた金融機関の統廃合も進んでいる。中小企業においては、FinTech を活用したクラウドファンディングによる資金調達力の劇的改善や経営の高度化等も期待されている。一方で、セキュリティ確保への懸念は根強く、FinTech 導入に取り組む中小企業は未

だ3割程度との報告もある²。クラウド会計・経理サービスを提供する FinTech 企業は、中小企業と金融機関をつなぐビジネスを積極的に展開しており、従来型の経済活動は今激動の時代を迎えている。如何に FinTech をビジネスに活用していくかが重要な課題となっている。

千葉商科大学経済研究所では、2018年7月7日(土)に「変化の時代を生き抜く FinTech 活用 —銀行、中小企業、ベンダーの事例から学ぶ—」をテーマとし、FinTech 企業との連携に取り組む株式会社千葉銀行、会計ソフトのトップランナーであり、近年 FinTech を積極的に展開している弥生株式会社、FinTech を推進し、企

業の事例を熟知する税理士といった識者をお招きし、公開シンポジウムを開催した。100名を超える方々にご参加いただき、大成功のシンポジウムとなった。

そこで今回の『CUC View & Vision』は、「変化の時代を生き抜く FinTech 活用」をテーマとし、シンポジウムでご登壇頂いた方々に寄稿をお願いした。シンポジウムで得られた貴重な知見を広く共有することを目的としている。

1本目は、千葉商科大学会計ファイナンス研究科教授で公認会計士としても活躍されている中村元彦氏による「変化の時代を生き抜く FinTech 活用 ―明るい未来の会計・税務に向けて―」である。ここでは、FinTech の概要、FinTech を国家戦略の一環として導入しているエストニアの事例等が紹介され、日本の動向についても述べられている。会計・税務の業務に携わる会計人は、FinTech 活用による業務の効率化、簡素化といった変化を前向きに捉え、専門家としての役割を強化する機会とするべきであると示されている。7月7日の公開シンポジウムの議論を受け、経営者の意識改革や人材育成の重要性も改めて訴えている。

2本目は、千葉銀行経営企画部フィンテック事業化推進室兼 T & I イノベーションセンター株式会社の関谷俊昭氏による「オープン API への取組みについて」である。同行は2020年を目標に社会全体の「デジタル化」に対応する「デジタルバンキング」へのソフト実現を戦略として掲げている。TSUBASA アライアンス（千葉銀行が FinTech をはじめとする先進的な IT 技術を調査・研究するために発足した営業地域の異なる地銀ネットワーク。現在7行が加盟）により、API、AI、ビッグデータ等、先進技術を活用した新たなビジネスモデルを積極的に推進しようとしている。急速な技術発展に伴い、顧客利便性や顧客満足度向上等を目的に、他社・異業種サービスとの連携で更なる付加価値を見出す動きも活発化している。

3本目は、会計ソフトベンダーのトップランナーである弥生株式会社代表取締役社長岡本浩一郎氏による「FinTech が変える会計の今とこれから」である。1987年に会計ソフト「弥生シリーズ」を発売以来、会計ソフト業界のトップリーダーとして実績を挙げてきた同社だからこそ言える「会計の本質的な価値」、「理想と現実のギャップ」、「FinTech がもたらす可能性」といった、「FinTech を中心とした企業会計の今」が紹介されている。FinTech により会計業務の生産性

向上と会計データの高付加価値化が期待できるが、その価値を得るために、さまざまな課題を解決しつつ、前に進むことの重要性が示されている。

4本目は、税理士法人本事務所 代表社員税理士・株式会社 YK プランニング代表取締役の行本康文氏による「会計事務所のビジネスモデル発生からフィンテック」である。本寄稿は、占領政策下の日本において発生したアナログ的な会計事務所のビジネスモデル紹介から始まる。その後起こった IT イノベーション、手書きの帳簿の技術者とのバトル、消費税の影響や会計ソフトのガラパゴス化など、会計業務の変遷について述べられている。企業会計の課題を解決するために、会計データを一元化する財務維新を開発し、クラウド会計・経理サービスの提供に至った経緯と、中小企業と金融機関を繋ぐビジネスの重要性についても論じられており、大変興味深い。

以上、本特集に寄稿いただいた4本の論説は、それぞれ視点から FinTech の潮流とその重要性について述べている。筆者は情報技術者でもあり、AI やビッグデータ解析といった技術が進歩した現代社会において、FinTech の流れは止めることができないと感じている。経済活動のグローバル化に直面している今、FinTech を適切に活用することで、ビジネスを高付加価値化することは極めて重要である。FinTech による変化を新たなビジネスチャンスと捉え、基盤となる知識をしっかりと身につけた人材を育成し、一歩踏み出すことが必要であろう。

千葉商科大学副学長 経済研究所長

橋本 隆子
HASHIMOTO Takako

1 PwC Global FinTech Report March 2016、「曖昧になる境界：フィンテックは金融サービスをどのように形成するか」

<https://www.pwc.com/jp/ja/japan-knowledge/archive/assets/pdf/fintech-finance1607.pdf>

2 中小企業庁、「決済事務の事務量等に関する実態調査」（株）帝国データバンク、平成 28 年 10 月（2016 年）